レキシカルフレイズの語法

廣瀬　浩三

0. はじめに

『島根大学外国語教育センタージャーナル』第2号において，口語的な否定表現を扱った中で，特に，'Not that I know of.' という表現に焦点をあて，その表現形式の柔軟性，並びに談話的機能を詳しく論じた。英語においては，こうした定型表現として用いられ，ある特定の文脈と密着して機能するレキシカルフレイズと呼ぶべき表現が多数存在し，談話的に重要な役割を果たしている。[1]

このようなレキシカルフレイズは，ネイティブスピーカーにとっては，言語能力の一部として組み込まれており，その使用は指摘されて初めて意識するというものであるが，英語を外国語として学ぶ学習者にとっては，「ネイティブスピーカーのように話し，書く」ために，十分身につけなければいけない学習項目となる。

このようなレキシカルフレイズは，発信型の英語習得が重要視されていく中，最近の英和辞典でも詳しく取り扱われるようになり，その代表的な「ジーニアス英和辞典」でも，第3版以後，特に強化され，例文の中にもレキシカルフレイズが積極的に取り入られると共に，句レベルのイディオムと併記されて，レキシカルフレイズが数多く列挙されている。辞書的な進歩として，従来のように単に意味を記述することにとどまらず，談話機能がコンパクトな形で言及されるようになってきていることが注目される。

本稿では，語法研究の課題としていくつかのレキシカルフレイズを取り上げながら，その談話的機能に焦点を当てながら，その持ち味を探っていきたい。その取り掛かりとして，レキシカルフレイズの重要性を反映して，２００７年１月に実施された大学入試センター試験の新しい形式の問題として出題された表現から分析していこう。

1. You're asking for it!

大学入試センター試験では，受験生に文脈からレキシカルフレイズの意味を推測させる問題として，以下のような文章が出題されている。

(1) The Browns drove from Sapporo to Furano in a rental car. While they were driving, the four children kept talking and screaming because they were excited.

Their laughter, giggles, and constant shouting bothered Mr. Brown. Several times, he asked them to be quiet. However, they did not listen to their father. He was becoming very angry, and finally he said to them, "*You're asking for it!*"
(ブラウン一家はレンタカーで札幌から富良野まで行った。車で移動中，4人の子供たちは，わくわくしてずっと話し続け，叫び声をあげていた。子供たちの笑い声やくすくす声，そしてずっと叫んでいたので，ブラウンさんはわずらわしく感じていた。数回，子供たちに静かにするように注意した。しかしながら，子供たちは父親の言葉に耳を貸さなかった。ブラウンさんはだんだん腹が立ってきて，ついに子供たちに言った。「いい加減にしないとひどい目にあうぞ。」)

この文章では，ブラウンさんは，車内ではしゃぐ子供達に注意を与える言葉として，当該のレキシカルフレイズを用いているが，「いい加減にしないとひどい目にあうぞ」といった最後通牒的な響きを伴い，単なる注意というよりは，語用論で言う「警告」としての発話の力 (illocutionary force) を持つ発言となっている。

上記の文脈は，このレキシカルフレイズが用いられる典型的な文脈をうまく反映しているように思われる。このフレイズは，危険を導くような行為，あるいは周囲の人を不快にさせる行為が継続的に行なわれていて，それをやめないと何らかのトラブルが生じるような状況にぴったりと当てはまるのである。it が漠然と将来生じる trouble を表しており，表現形式として，'you're asking for trouble' というのも，同意表現で用いられる。

このレキシカルフレイズの形式的特徴としては，通例，現在進行形で用いられ，just や really のような副詞をしばしば伴い，進行形自身が表す臨場感あふれた，感情的な含みを持つ表現として機能する。また，この表現の典型的な形は，(1) のように，二人称主語を伴い，直接相手に警告を発するというものであるが，主語には，三人称主語がきても，特に問題はない。ちなみに，以下の例のように分詞句を従えて，その警告の理由が示されることも多い。

(2) *He's really asking for it*, coming in late.—*RHWDAE*（遅刻してきて，彼は大目玉を食らうぞ。）

すでに述べたように，この表現は，すでに生じている相手の言動に対して注意を喚起する働きがあるが，「すべきことをしないととんでもないことになる」というような状況でも，

典型的に用いられる。

(3) You'd better check the oil in the car. Otherwise *you're just asking for trouble.—LAAD*（車のオイル点検した方がいいよ。さもないと大変なことになるぞ。）

関連して，同様の表現形式で，単純形（特に過去時制）で用いられた場合には，ニュアンスが若干異なり，「(問題が生じたのは）自業自得だ，他人のせいではない」という批判を表す発言となり，レキシカルフレイズとして，区別しておいた方がよいように思われる。

(4) A：The boss scolded me for being late this morning.
B：*You asked for it!* Today's the third day in a row.—Vardaman(1994)
（A: 今朝遅刻したらボスにどなられたよ。B: 自業自得だ。3日連続だもの。）

この表現は，単純形で用いられることが多いが，この意で次のようにすでに生じた出来事に対する原因・理由を述べるような文脈では，進行形を伴って用いることも可能である。

(5) It's his own fault he got hit. I mean, *he was asking for it.—LAAD*（彼がぶたれたのは自業自得だよ。だって，そうした事態を招くようなことをしていたもの。）

以上，一つのレキシカルフレイズの持ち味を見ただけであるが，レキシカルフレイズは，ある程度の表現のバリエーションはあるが，集約的に，その持つ文法形式と用いられる状況が一体化した表現と言え，その談話的機能の分析がその重要課題となる。

以下，特にトピックマネッジメントに関るレキシカルフレイズの具体例を取り上げ，それぞれの表現の使い方を中心に記述し，広く談話の中でレキシカルフレイズの果たす役割を見ていきたい。

2. Guess what!

表題のレキシカルフレイズは，「ちょっと聞いてよ，面白い話があるよ，当ててみて」と会話の切り出しで相手の興味関心を誘う表現として用いられる。相手を自分の話題に（無理矢理）引き込む働きがある。持ち出される内容は，通例，本人や相手，あるいは第3者に

とって好ましいことが提示される。

(6) Alice：*Guess what!* Bob：I don't know what. What? Alice：I'm going to Europe this summer.—Spears(1992)（アリス：ねえ，当ててみて。ボブ：分からないよ。いったいどうしたんだ？　アリス：今年の夏ヨーロッパに行くのよ。）

(7) "Hey *guess what*," she says. "You were a star today." "Bull. I was the *zero*（原文イタ）kid today. " —G. Green, *The Juror*（「ねえ，聞いて。今日はスターだったじゃない。」と彼女は言った。「ふざけないでよ。今日は最低だったよ。」）

(8) John：*Guess what!* Jane：What? John：Mary is going to have a baby. Jane：Oh, that's great! —Spears(1992)（ジョン：ねえ，聞いてよ。ジェーン：なあに？　ジョン：メアリーに赤ちゃんが生まれるらしいよ。ジャーン：まあ，素敵な話ね。）

同じように，会話の切り出しや会話に新しい話題を持ち込む際に用いられる表現として，'(Do) you know what?' というレキシカルフレイズがあるが，この場合には，内容的に必ずしも制限はなく，会話的クッションとして機能することから，次の例のように，好ましくない内容が続くことも多い。

(9) a. Bob：*You know what?* Mary：No, what? Bob：I think this milk is spoiled.—Spears(1992)（ボブ：ねえ。メアリー：なあに？　ボブ：このミルク悪くなっているよ。）

b. Bob：*Know what?* Bill：Tell me. Bob：Your hair needs cutting. Bill：So what?—*Ibid*.（ボブ：気づいているかい？　ボブ：言ってくれよ。ボブ：髪が伸びすぎているよ。ビル：それがどうしたんだ。）

さらに，what を伴い，同様の機能を果たす '(I'll) tell you what' では，「いい考えがある，じゃこうしよう，ちょっと話を聞いてよ」と自らの意見や提案を持ち出す際に，ワンクッションをおき，唐突さを避けようとする表現として用いられる。聞き手は，この言葉から，身構えることもあるが，相手の言葉を聞き入れる準備を整えることができるのである。

(10) "*Tell you what*. I'll give you Ruper's number and you two can work out your own arrangements."—S. Grafton, *"J" Is For Judgment*（「こうしたらどう。ルーパーの

電話番号を教えてあげるから，二人で段取りつけてよ。」)

このように，「形が違えば意味も違う」という原理は，レキシカルフレイズの分析においても極めて重要な考え方で，形式も似ており，大きくは談話内で果たす機能として共通点を見出せるが，それぞれが好んで用いられる状況には微妙な差があり，それを明らかにしていくことが重要課題となる。

3 . (That's a) good question.

このフレイズの基本的な談話機能は，トピックセクションにおいて，質問という形で相手の導入しようとする話題に対して応答を行い，会話のパートナーとして，それを容認する友好的態度を示すことである。

(11) ...In the opinion of the team, what would they consider to be absolutely necessary?
Good question, Janet Goodacre. —*BCET*[Wray(2002)]
(「チームの意見として，メンバーは何が絶対的に必要だと考えているのでしょうか？」「いい質問ですね，ジャネット・グッドエイカーさん。」

(12) "Look here," he said. He held the beam of light on a crescent-shaped bit of broken glass. "Hey. Crime Scene. Check this for prints and put it in an envelope as evidence. See if the pieces fit together at all." "What would a piece of glass from that window be doing out here?" Martha Zimmer asked. "I think *that's a pretty good question*, Martha." "I mean, if the perp hit the window from the outside, the glass would fall inside−or straight down, anyway." —W. Harrington, *Columbo:The Glitter Murder*（「これを見てみたまえ。」とコロンボは言った。彼は光り輝く三日月形の壊れた窓ガラスの破片を持っていた。「おい，現場検証だ。指紋を調べて証拠品として封筒に入れておいてくれ。破片が窓ガラスにあてはまるか確かめておいてくれ。」「でもどうして窓ガラスの破片がこんなところに落ちているのでしょうか。」「とてもいい質問だと思うよ。」「つまり，もし犯人が外から窓ガラスを割ったとすれば，ガラスは中に落ちるはずですわ。少なくとも真っ直ぐ落ちるかのどちらかですわ。」)

このフレイズにより「私は考えてもみなかったが，あなたの質問は妥当である」というメタメッセージが伝えられ，上記の（12）の例では，犯罪の素人の若い女性の指摘に対して，文字通りのほめ言葉としての機能も果たしている。このフレイズは，さらに一歩進み，相手を十分満足させる答えを持ち合わせていないことを合図し，答えを用意するまで時間稼ぎする発言としても用いられる。この場合には，question に主強勢が置かれることにも注意されたい。

(13) “How much is all this going to cost?” *“Good question!”—OALD7*（「全部でいくらですか？」「ちょっと待ってください。」）

(14) [A Conversation between friends at A’s house]

A: The French Government has made it illegal for anything but unbleached flour to be used.

B: How do you bleach flour?

A: *A good question.* I don’t know. —Fernando(1996)

（[A の家での友人同士の会話] A: フランス政府は無漂白小麦以外のものの使用を禁止したそうだよ。B: そもそも小麦をどうやって漂白するんだい？ B: いいところをつくね。そんなの知らないよ。）

次の例では，突然尋問に訪れたコロンボ刑事が，逆にやり込められてしまう場面である。十分下調べをして訪問してきたのであるが，その情報源を問い詰められ，お手上げ状態になってしまっている。このレキシカルフライズは，通例，新しい話題の導入の際に用いられるが，この例では，話題の終結表現として用いられていることに注意されたい。

(15) “So how’d you find out about me?” “Mrs. Cooper-Svan knew about you.” “Huh-uh. She may have known who I was, but she didn’t know what my name was or where to find me.” “She knew your name.” “How?” Columbo ran his hand through his hair. He tipped his head to one side and shrugged. “*That’s a good question,*” he said.—W. Harrington, *Columbo:The Glitter Murder*（「それでどうやって私のことを知ったの？」「クーパー・スブンさんがあなたのことをご存知だったのですよ。」「なるほどね。彼女はどんな人物かは知っていたかもしれないけれども，私の名前や居所を知っていたはずがないわ。」「彼女はあなたの名前を知っていまし

たよ。」「どうやって？」コロンボは，頭をかきむしった。そして首を傾げて，肩をすくめた。「ごもっともな質問ですね。」）

4 . **Which reminds me./ Speaking of which, ～**

Which 節が独立的に用いられる傾向が，特に現代アメリカ英語で多く見られるようになってきていることは，すでに廣瀬 (2001) で詳しく論じたが，その用法の中で，特に会話において which 節が独立的に用いられる場合に，トピックマネッジメントと関連し，相手との駆け引きの手段としても用いられるものがある。

吉田 (1997) は，この会話における which の独立用法を取り上げて，「相手の発言およびその内容を which で引き受けて，会話の流れを途切れさせないように配慮する用法である」と述べて，「which の代わりに，it や that を使うことも可能であるが，相手の発言をとっさに引き継ぐ『滑りのよさ』は which 独特のものと言えるだろう」といった鋭い指摘をしている。

ここで取り上げる 'Which reminds me' は，一見相手に波長を合わせているように見えるが，which の滑りのよさを巧みに利用して会話の順番を獲得し，話題転換を図る表現として捉え直すことができよう。先行文が引き金となって「それでふと思い出したのだが」と切り出し，新たな話題が導入されていく。とは言え，基本的には後続する内容は多少とも先行文と関連性を持たなければならず，(16) では，先行文で時間に関しての発話があり，それをきっかけとして自分の都合を持ち出している。

(16) "... Matter of fact, I'm supposed to be on duty at this very moment. But I conned one of the more liberal residents into taking my shift—which means when I get back tonight I'll have to work for maybe fifty hours straight."
"*Which reminds me*—I've got to hustle to make my seven thirty plane. Can I drop you anywhere, Anita?"—E. Segal, *Doctors*（「実は，今勤務していることになっているのよ。とは言っても物分りのいい研修医の一人を言いくるめて私の勤務を替わってもらったのだけれどもね。戻ってきたら 50 時間連続勤務しなくちゃいけなくなるわ。」「時間のことで思い出したが，急いで 7 時 30 分の飛行機に乗らなくっちゃいけないんだ。どこかで君を下ろしてもいいかい？」）

しかしながら，'Which reminds me' は，次のように，まったく関係のない話題を導入す

る前置き表現（preface）としても利用される。

(17) “This college is so beautiful,” she said. “It’s like another century.”
“*Which reminds me,*” Bob replied, ignoring his non sequitur, ” are you busy next weekend?”—E. Segal, *Man, Woman, and Child*（「この大学はとてもきれいね。」と彼女は言った。「別の世紀みたい。」「それはそうと，来週の週末は空いているかい？」とボブは彼の無関係な発言は無視して応答した。）

‘Which reminds me’ は，通例，相手の発話を受けて用いられるが，以下の例のように自らの発話内で話題を転換するために巧みに用いられる場合もある。

(18) “Everyone blamed me. Everyone believed I was guilty. And now I take it Con Dolan thinks I killed Libby Glass. Isn’t that what you’re getting at?” “Who cares what Dolan thinks? I don’t think you did it and I’m the one going to work on this thing. *Which reminds me.* We ought to get the financial end of it clarified. I charge thirty bucks an hour plus mileage.” —S. Grafton, *‘A’ Is For Alibi*（「みんな私を咎めたわ。みんな私がやったと思っているのよ。そしてきっとドランは私がリビー・グラスを殺したと思っているわ。あなたも狙いもそこにあるんでしょ？」「ドランがどう思っていようと関係ないわ。あなたがやったとは思っていないし，事の真相をつきとめるのが私の仕事なのよ。それで思い出したわ。金銭的なことをはっきりさせておくべきね。車のガソリン代と時給 30 ドルいただくわ。」）

次の例でも，相手の応答を挟んで，自らの発話の途中で，ふと思いついたことに話題転換を図っている。

(19) “There are some people who are just too godamned obnoxious to have around.” “Meaning me?” “*Which reminds me,* Fletcher. Another sleazy lawyer was around the office again this afternoon looking for you. Something about nonpayment of alimony.”—G. Macdonald, *Fletcher*（「周りにいるととても不愉快になる連中がいるわよね。」「俺のことかい？」「あなたのことで思い出したんだけれども，今日午後品のない弁護士があなたを捜してオフィスをうろついていたわよ。離婚手当の未払い

の件じゃないかしら。」)

ちなみに，この用法と関連して，主として話し言葉で，以下のように，‘Speaking of which, ...’ の形式でも定型的に用いられ，which がまったく独立した形となっていることにも注目しておきたい。この句も ‘Which reminds me’ と同様に，先行文脈に依存する形で話題を展開させたり，新たな話題の導入表現として用いられる。次の (20) では，相手が金銭的な話題を持ち出し，それに同調する形で，自らの報酬の話に話題をもっていき，しっぺ返しを行なっている。また，(21) では，相手の用いた ‘redneck’（南部の農園で働く労働者が日焼けしているところからきた表現）に関連した発話を続けて，話題を敷衍している。

(20) “My own lawyer said you could force me. As long as I'm going to waste my time, I might as well get paid.”
“*Speaking of which,*” I said, “my fee's three hundred seventy-five dollars per hour, portal-to-portal. I'll send you the bill and expect you to get it paid within thirty days. I also expect a contract from you to that effect within three days.”—J. Kellerman, Clinic（「私自身の弁護士はあなたは私を拘束しているといっていますよ。私の時間を費やす限り，お金を支払っていただくのは当然ですよね。」「それについて言えば，私の料金は拘束時間ごとに 375 ドルだ。請求書を送るから 30 日以内に振り込んでくれ。それにその旨を記した契約書を 3 日以内にいただきたいね。」)

(21) “...But that may not happen for a while, because African-American is such an awkward phrase to say.” “Especially for a redneck,” I said. “*Speaking of which,* how do they feel about being called rednecks?”—L. Block, *Tanner on Ice*
（「でもそんなことはしばらく起こらないよ，というのもアフリカ系アメリカ人とうのはとてもぎこちない表現だからね。」「特にレッドネックにとってはね。」と私は言った。「その表現について言えば，レッドネックと呼ばれるのはどんな気持ちなんだい？」)

このように，この表現においても which が先行文脈との結束性 (cohesion) を保証しているわけであるが，もっぱら話題転換に主眼が置かれる場合もある。(22) では，話を打ち切って，現実の仕事に戻らなければならいことを持ち出すのに ‘Speaking of which, ...’ を巧みに利用している。

(22) “Now, now, what’s a little reality between friends? *Speaking of which,* I’d better deliver the news to my clients.”—J. Kellerman, *Private Eyes*（「まあ，まあ，友人同士の現実問題の話をしようじゃないか。それについて言えば，そのニュースを依頼人に伝えるべきだろうね。」）

さらに，次の例では，‘Speaking of which’ 自体が独立的に用いられ，「それはそうと」と前置きしながら，まったく新しい話題を持ち出している。(23) では，見方によれば，which は，「見上げた天井」を受け，それに続けて新しい話題を持ち出していると言えよう。この例では，which の指示機能は，テキスト照応から発展的に，状況照応と言ってもよい機能を果たしているが，特異な例であると考えられる。

(23) “Well, you’ve always adjusted quickly to new realities,” she said. “It’s one of your strengths.” She cocked her head and looked up at the ceiling. “*Speaking of which.* You were upstairs, you talked to him. What do you think?” —L. Block, *Hit Man*（「でもあなたはいつもすぐに新しい環境に適応できるのね。」と彼女は言った。「それがあなたの強味の一つよ。」彼女は首を傾けて天井を見上げた。「それはそうと。あなたは 2 階にいて，彼と話をしたのよね。あなたの考えを聞かせて。」）

最後に，会話の締めくくりとして使われる enjoy の自動詞用法について見てみよう。

5 . Enjoy!

すでに指摘したが，レキシカルフライズは，その文法形式そのものを含めて，状況と密着した表現として機能する。ここで取り上げる enjoy についてもそのことが言え，文法形式的には，自動詞として用いられるが，この自動詞用法は，命令文として単独に用いられる用法に限られている。[*MED*] したがって，次のように，一般的に自動詞として用いる用法は不可となる。

(24) *I *enjoyed* at the party.—*OALD7*（cf. I *enjoyed myself* at the party.）

典型的に用いられる状況としては，次のように，相手に食べ物や飲み物を相手に給仕し，

それを勧める表現として用いられる。

(25) a. Here's your dinner. *Enjoy!—LAAD*（夕食ができましたよ。さあ，どうぞ。）
b."Here's you rcoffee, dear." said Fred. "*Enjoy!*" —Spears(1992)（「さあコーヒーを入れたよ。召し上がれ」とフレッドは言った。）

この表現は，次のようなレキシカルフレイズから目的語が省略されて派生したと考えられる。[2]

(26) Waiter：Will there be anything else? Customer：Not right now, thank you. Waiter：*Enjoy your meal!*—Vardaman(1994)（ウェイター：他に何か注文，ございますか？　客：今のところは何も。ウェイター：ごゆっくりお召し上がりください。）

ただし，(27) のように，食べ物以外でも，相手に楽しめる対象物を勧める際に用いられる。(27) においても，(25a,b) と同様に，前文に Here's ～という，物を提示する表現を伴っていることにも注意されたい。

(27) Here's the book I promised you. *Enjoy!—OALD7*（さあ約束した本だよ。楽しんでね。）

そして，具体的に何か物を勧める以外に，相手が行おうとしている行為を対象として，「楽しんでいらっしゃい」という意で，別れの挨拶としても機能する。[3]

(28) A：Well, I'm off to the swimming pool. B：*Enjoy!* —Vardaman(1994)（A:それじゃ，プールに行ってきます。B: 楽しんでいらっしゃい。）

以上のように，Enjoy! というレキシカルフレイズは，相手に食べ物や飲み物を勧めるといった言語使用域が次第に発展していき，単独で命令文の形式で用いることは保持されているが，enjoy の対象となる物事や行為が保証される限り，様々な状況で用いられるようになってきている。その発展的使用として，次の例のように，特に具体的な enjoy となる対象は見出せないが，漠然と生活一般を楽しむことを祈願した別れの挨拶として用いるこ

とができるのである。

(29) Sue：What a beautiful day! Good-bye! Tom：Good-bye. *Enjoy!* —Spears(1992)
（スー：とてもいい天気ね。さようなら。トム：さようなら。じゃあね。）

次の例では，発話者は暗に自分の発言と関連させ，新聞記者たちと楽しんで話をしろよといったことを伝えようとしているが，その場に居合わせなかったスペンサーには，単なる一般的な挨拶として響いていることに注意されたい。

(30) "What is his name, Lieutenant" "Spenser. He'll be back there by the door." Quirk said. "I'm sure he'll enjoy talking with you."

Then Quirk stepped down from the lectern and walked through the reporters and passed me, out the door. As he passed me, he said. "*Enjoy.*"—R.Parker, *Crimson Joy*（「その人物の名前は何と言うのですか，警部。」「スペンサーだ。ドアから戻ってくる。きっと諸君と楽しんで話をしてくれるよ。」とクワークは言った。それから彼は記者会見台から降り，記者たちの中を通り抜けて，私の横を通り過ぎ，ドアの外へ出て行った。私の横を通り過ぎるときに,「楽しみたまえ。」と声を掛けた。）

6．おわりに

本稿では，具体的なレキシカルフレイズをいくつか取り上げ，その使い方を分析することによって，その持ち味を垣間見たが，レキシカルフレイズに対する興味は尽きない。もう一度原点に戻って考え直しても，今後探求していくべき課題が次々と浮かんでくる。

レキシカルフレイズは，しばしば会話などで定型表現として用いられることから出発したのであるが，各表現の頻度として，どれほど一般的なのであろうか？ また，定型表現と述べたが，各表現には凍結度の差があると考えられ，それぞれ表現のバリエーションとして，どの程度まで許容されるのであろうか？ 中心的な課題となる，その使用目的，すなわち，それぞれの表現の談話機能はいかなるものなのであろうか？

さらに，言語理論の中では，このような表現はいかに位置づけられるのであろうか？ ネイティブスピーカーは，言語習得の過程で，どのようにしてこうした表現を獲得していくのであろうか？ 他方，第2言語や外国語として英語を学ぶ話者にとっては，その獲得にどのような困難を伴うのであろうか？ あるいは，具体的にどのようにそれらを学習して

いけばよいのであろうか？

レキシカルフレイズの研究は，まだスタート地点にあるといっても過言ではないように思われる。その研究においてまず行わなければならないことは，個々のレキシカルフレイズについての地道な語法研究である。理論的な集約を行う前に，言語事実として明らかにしておくべきことが数多く存在し，語法研究の対象として，今後活発な議論が展開されていくことが期待される。

注

1「レキシカルフレイズ」という用語は，Nattinger, J.R. and J.S. DeCarrico(1992) のタイトルにも現れ，徐々に定着つつあるが，その言語現象については，様々な用語が用いられて，多く言語学者に注目されてきたものである。これまで用いられてきた主だった用語を以下にあげておきたい [cf. Wray(2002:9)]: amalgams, chunks, clichés, co-ordinate constructions, collocations, complex lexemes, composites, conventionalized forms, fixed expressions including idioms[FEI], fixed expressions, formulaic language, formulaic speech, formulas/formulae, fossilized forms, frozen metaphors, frozen phrases, gambits, gestalt, holophrases, idioms, lexical simplex, lexical(ized) phrases, lexicalized sentence stems, listemes, multiword item/units, multiword lexical phenomena, nonpropositional, petrifications, phrasemes, praxons, preassembled speech, precoded conventionalized routines, prefabricated routines and patterns, ready-made expressions, ready-made utterances, recurring utterances, routine formulae, schemata, semipreconstructed speech that continue single choices, sentence builders, set phrases, stable and familiar expressions with specialized senses, stereotyped phrases, stereotypes, stock utterances, unanalyzed chunks of speech, unanalyzed multiword chunks, units

2 何か行動することを勧める場合に，次のように oneself を伴った形でも命令文でよく用いられ，この再帰代名詞が省略されて派生したとも考えられる：Come on, why aren't you dancing? *Enjoy yourselves!—CIDE*

3 同様の状況で，Have fun というレキシカルフレイズもよく用いられる：A：We're going downtown for dinner and a piano concert. See you later. B：Okay. *Have fun.*—Vardaman(1994)（A:街で食事をして,それからピアノ演奏会に行ってきます。それじゃ，また。B：ええ，楽しんでいらっしゃい。）

＜参考文献＞

Fernando, C. 1996. *Idioms and Idiomaticity.* Oxford University Press.

廣瀬　浩三．1986.「談話現象の記述に向けて」『島根大学法文学部紀要』第 9 号，779-803.

廣瀬　浩三．2001.「現代英語における新しい方向性をめぐって－文頭に現れる which の用法を中心に－」『島大言語文化』 8 号，1-47.

Nattinger, J.R. and J.S. DeCarrico 1992. *Lexical Phrases and Language Teaching.* Oxford University Press.

Spears, R.A. 1992 *Common America Phrases in Everyday Contexts.* NTC Publishing Group.

Vardaman, J.M. & Vardaman, M. 1994. *745 Most Frequently Used English Expressions*. 中経出版.

Wray, A. 2002. *Formulaic Language and the Lexicon.* Cambridge University Press.

吉田　一彦 1997.『現代英語紀行』 大修館書店.